

2023年（令和5年）4月26日

東京都美術館『マティス展』とのタイアップ企画

### マティスの色彩の世界を 表現したディナーコース

◇ラ ブラスリー <sup>ムニユ</sup> 『Menu MATISSE』

期 間：5月23日（火）～8月20日（日）

料 金：13,000円（サービス料・消費税込）



アンリ・マティスの作品やゆかりの地にちなんだメニューで構成するディナーコース  
『Menu MATISSE』

帝国ホテル 東京は、東京・上野の東京都美術館で開催される展覧会『マティス展』とのタイアップ企画として、フランス料理「ラ ブラスリー」で、5月23日（水）から8月20日（日）まで、『マティス展』に展示される作品等にちなんだディナーコースを提供いたします。



『マティス展』は、日本では約20年ぶりの大規模な回顧展として4月27日（木）から8月20日（日）まで開催されます。

20世紀を代表するフランスの巨匠、アンリ・マティス（1869-1954年）。純粹な色彩による絵画様式であるフォーヴィスム（野獣派）を生みだし、モダン・アートの誕生に決定的な役割を果たした彼は、84歳で亡くなるまでの生涯を、感覚に直接訴えかけるような鮮やかな色彩と光の探求に捧げました。彼が残した仕事は、今なお色あせることなく私たちに魅了し、後世の芸術家たちにも大きな影響を与え続けています\*。

帝国ホテル 東京ではこの『マティス展』とのタイアップ企画として、タワー館地下1階の「ラ ブラスリー」で、ディナーコース『Menu MATISSE』を提供いたします。シェフ 鎌田 英基が、今回の展覧会で展示される作品や晩年を過ごした南仏などのマティスゆかりの地から考案したオリジナルメニューです。

\*出典：マティス展公式ウェブサイト

#### シェフ 鎌田 英基（かまた ひでき） 略歴

1997年に帝国ホテル入社。入社後はホテル内のラウンジ、メインダイニング、宴会部門、海外ホテルなど様々な部門で経験を積むほか、国内・外の料理コンクールでも功績を残す。2022年よりラ ブラスリーのシェフを務める。



概要は次の通りです。

## ■ 「Menu MATISSE」 概要

期 間： 5月23日（火）～8月20日（日）

第1弾：5月23日（火）～6月30日（金）

第2弾：7月1日（土）～8月20日（日）

※第2弾は一部メニューを変更してご提供いたします。

場 所： タワー館地下1階「ラ ブラスリー」

時 間： デイナー 17:00～21:00（ラストオーダー）

料 金： 13,000円（サービス料・消費税込）

※第1弾は、チケット付プラン 15,000円もご用意しております。  
（ご使用前に日時指定予約が必要なチケットです。無くなり次第  
プランの販売を終了いたします。）

ご予約・お問い合わせ：「ラ ブラスリー」 03-3539-8073

## マティス展 タイアップメニュー 「Menu MATISSE」

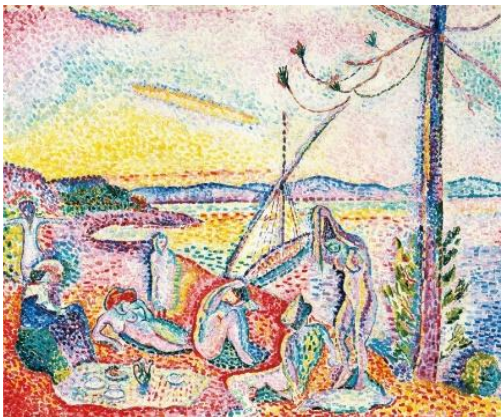
### 第1弾：5月23日～6月30日

～光と色～

#### 前菜：ホワイトアスパラガスと紅ズワイ蟹の冷製 ソース・マルテーズ

日本初公開の《豪奢、静寂、逸楽》は、新印象主義の原理を援用して光に満ちた理想郷ともいべき風景を描いた、初期の作品です。

この美しい作品から描き上げた前菜は、白アスパラガスに紅ズワイ蟹を合わせ、マイクロトマトや何種類ものソースを点描のように置いた色とりどりの一品です。



アンリ・マティス 《豪奢、静寂、逸楽》1904年 油彩／カンヴァス ポンピドゥー・センター／国立近代美術館  
Centre Pompidou, Paris, Musée national d'art moderne-Centre de création industrielle

～マティスの赤～

**魚料理：季節のお魚をサフラン香るソースで**

1946年から1948年にかけて描かれたヴァンスのアトリエシリーズの最後を締めくくる《赤の大きな室内》は、マティスの色彩に関する仕事が凝縮された大作です。パプリカのピューレとイカスミのムース、季節の魚で、真っ赤な空間やそこに散らばる絵画といったマティスの色彩を表現しました。



アンリ・マティス《赤の大きな室内》1948年 油彩／カンヴァス ポンピドゥー・センター／国立近代美術館  
Centre Pompidou, Paris, Musée national d'art moderne-Centre de création industrielle

～果実を香らせて～

**肉料理：仔羊のロースト シトロン香るプロヴァンサル・レギューム添え**

マティスの絵画によく登場する果実と、晩年を過ごしたプロヴァンス地方に着想を得た一皿。

～面と線～

**デザート：バラ香るオペラ ラズベリーシャーベット添え**

《白とバラ色の頭部》は、マティスが長女マルグリットを描いた 30 点ほどの肖像画のうちの 1 点で、彼の作品の中でも最もキュビズムの影響が色濃い作品と言えます。絵画の一部を切り取ったかのようなデコレーションが印象的なデザートです。



アンリ・マティス《白とバラ色の頭部》1914年 油彩／カンヴァス ポンピドゥー・センター／国立近代美術館  
Centre Pompidou, Paris, Musée national d'art moderne-Centre de création industrielle

**【マティス展】**

期間： 2023年4月27日（木）～8月20日（日）  
会場： 東京都美術館 企画展示室  
お問い合わせ： 050-5541-8600（ハローダイヤル）  
公式サイト： <https://matisse2023.exhibit.jp/>